



寺林 俊幸
議員
(政清会)

問 幕別町を取り巻く社会経済情勢は、少子高齢化の急速な進行、農業政策の変革など今後10年で大きく変化することが見込まれており、町民の暮らしや地域経済に様々な影響を与えることが予測される。

こうした状況の中でどこに町民が魅力を感じられる町づくりができるか、更に将来を担う子どもたちの未来を創造していくには、幕別町が持つ強みを生かすとともに、時代の潮流を的確に捉えながら選択肢を広く持ち、町づくりを進めていくことが重要と考え、以下の点について伺う。

(1)少子高齢化が進む中で、幕別市街、忠類市街においての定住促進住宅建設費補助金制度終了後の町の総人口維持に対する施策について伺う。

(2)国内外から注目される北海道。その中で幕別町としては、上尾市、開成町、中土佐町などと多くの事業を通じ町のアピールに努めているが、今後の魅力発信戦略について

問 少子高齢化が急速に進む上での町づくりについて
答 観光を初めとする振興策によって町を元気にしていく

て考えを伺う。

町長 (1)定住促進住宅建設費補助事業は、住宅を新築または購入する方に費用の一部を補助するもので、平成24年から26年までの3年間の事業として、取り組んできており、これまでの2年間で42件の補助対象のうち23世帯50人が町外から転入すると見込んでいます。

事業の実施により、町内事業者への建設機会の増加や、町の分譲地の売却など目に見える効果があったが、事業終了時に補助事業の費用対効果などを慎重に検証するとともに、消費増税後の住宅需要の状況などさまざまな視点から検討すべきものと認識している。

(2)東京や札幌での広域の観光宣伝事業へ参加するとともに、埼玉県上尾市の産業祭りや神奈川県開成町のあじさい祭りに出向いて、町の農畜産物や加工品等の販売を通じ、幕別町を知ってもらおう取り組みに努めてきた。今後は、高知県中土佐町も加えて、物産イベント

のほか、児童生徒の交流や職員交流などを計画し、幕別町の魅力発信に向け取り組んでいきたい。

また、平成24年7月には「まぐべつ稔りの里」が設立され、道内外から修学旅行生を受け入れる農村ホームステイ事業の取り組みを開始したが、これまでに271名の中・高校生が来町し、食に対する理解を育むことに合わせ、幕別町を知ってもらい、マチの応援団となってもらえるよう、大きな期待を寄せている。

ほかにも、平成24年度には観光パンフレットやDVDの作成を初め、忠類ナウマン全道そり大会に合わせ、1泊2日の「モニターバスツアー」を行い、道央圏から30人の参加を得て、雪中パークゴルフやソーセージづくりなどの体験や温泉、食を通じ幕別町の魅力を感じてもらえる取り組みなども展開してきた。

今後は、平成26年度末の忠類インターチェンジの開通に合わせ、直結する道央圏に向け、道央圏で

の販売促進事業など実施することはもとより、交流がある上尾市や開成町、中土佐町からも呼び込むことができるよう、さらなる魅力発信の方策の検討に取り組んでいきたい。

再質問 パークゴルフ発祥30周年を契機に商工会、物産協会などの関係機関とさらに連携を深め、幕別町のPR活動を町民の皆さんにご理解頂き共に展開出来ることが町の魅力の一つとなると考えるが伺う。

答 多くの住民の参加があつて、一緒にやっていくことが協働のまちづくりにもつながっていく。ぜひこれから協力してもえらえるような体制づくりを進めていきたい。



観光パンフレットとDVD
(幕別町観光物産協会ホームページから映像を見ることができます)